

日本人の水の常識を

くつつがえした

たぐいまれなる名水



大分大学 教育福祉科学部
地球化学研究室 教授

川野 田實夫

所属学会

- 日本陸水学会
- 日本温泉科学会

社会活動

- 九州環境管理協会常任理事
- 大分市環境審議会会長
- 大分県環境審議会水質部会委員
- 瀬戸内海研究会議理事

ヨーロッパでは、ミネラルウォーターが公的医療保険制度のもとに色々な病気の治療に使われています。しかし、日本の水の場合、そのほとんどがミネラル含有量が希薄な軟水のため、単に安全・おいしさのみの追求に終わり、この制度の適用までは誰も考えていませんでした。「森羅一滴」^{しんらいつてき}を生み出した黒岳は、全体が深い原生林に覆われ、年間3000ミリを越す亜熱帯雨林なみの雨が降ります。この豊富な雨水が火山岩の中のミネラルや炭酸ガス(二酸化炭素)をゆつくり時間をかけて取り込んでいきます。また、特筆すべきはこの水が豊富な炭酸水素イオンを含んでいることです。これだけの硬度をもちながら、鉄や有害元素が含まれていない事も不思議のひとつと言えるでしょう。

日本でもこのようなヨーロッパレベルの硬水が飲めるのは大変喜ばしい事であり、たぐいまれなる名水の誕生と言えるでしょう。